

2日目

# 浜通り現地見学

福島県は「浜通り」「中通り」「会津地方」の3地域で構成されています。今回は津波災害にあった浜通りに焦点を定めて見学会を開催しました。温泉から石炭、原子力とエネルギーの変化と共にあった浜通りを体感する一日となりました。



バス車内での案内・解説は里見喜生さん

## ■ 炭鉱ヘリテージ

いわき市では、福島県富岡町付近から茨城県日立市にかけて南北に広がる常磐炭田の一角として、江戸時代末期から約120年にわたって石炭の採掘が続けられました。今回は、そうした産業遺産を伝える活動を続いている、いわきヘリテージ・ツーリズム協議会の方々のガイドで見学を行いました。

まず、1855年に石炭が発見され、炭鉱開発のはじまりとなった弥勒沢（現・内郷白水町）に向かいました。現地では、採炭現場の復元がなされています。また、かつての坑内労働者が個人で開設した資料館もあり、作業に使われていた道具などが展示されています。その後、内郷礦中央選炭工場跡に向かいました。ここでは、採掘した石炭からズリ（捨石）を取り去り、品質や種類で選別する作業が行われていたといいます。



## ■ 東日本大震災・原子力災害伝承館

東日本大震災・原子力災害伝承館は、2020年9月20日に福島県が双葉町に開設し、公益財団法人「福島イノベーション・コースト構想推進機構」が運営する伝承施設です。国の交付金で建設され、「収集・保存」、「調査・研究」、「展示・プレゼンテーション」、「研修」の4部門が設けられています。当日は学芸員の瀬戸真之さんのガイドで見学を行いました。

展示の内容は、地震発生当時の様子を伝える映像に始まり、当時の住民の行動、日常の変化、原発事故直後の状況や事故の影響、行政や県民の復興の取り組みなど多岐にわたります。また、語り部講話や地域交流のスペースも設けられています。見学後は、隣接する交流拠点、双葉郡産業交流センターの屋上展望台から福島第一原子力発電所を臨みました。



## ■ とみおかアーカイブ・ミュージアム

とみおかアーカイブ・ミュージアムは、2021年7月11日に富岡町が開設した伝承施設です。原発事故による全町避難、警戒区域の再編を経て、家財の整理や家屋の解体等で失われかねない地域資料を収集する目的で、町でプロジェクトチームが組まれたことが淵源にあります。当日は、学芸員の門馬健さんのガイドで見学を行いました。展示は、津波や原発事故によって失われた住民の日常をテーマとしています。入口付近のタウンギャラリーには、昭和20～40年代の町の商店街が模型で再現されています。常設展示室は大きく2つに分かれ、片方は富岡町の成り立ちやその特徴がわかる地域資料が展示されています。もう片方は、震災を伝える展示で、町民の避難誘導にあたったパトカーが置かれていたり、当時の災害対策本部の様子が再現されています。



## フォーラム in 福島に向けて

大阪公立大学・公害資料館ネットワーク幹事 除本 理史



「公害資料館連携フォーラム in 福島 2023 プレ企画」では、福島原発事故を公害として捉えることについて、様々な意見が出た。

定義にもよるが、言葉の問題として、原発事故による環境汚染を公害でないと主張するのは難しいだろう。問題は、公害と捉えることで何が見えてくるのか、ということだ。

個々の事案はそれぞれ異なるから、違いを強調しすぎると共通性を見出しつづくなる。もちろん地元の方々が押しつけがましいと感じるようではいけないし、原発事故の前提には自然災害としての津波被害もある。あまり結論を急がず議論を継続することが大事だと思う。フォーラムの実行委員会はすでに立ち上がっているので、より幅広い視野から様々な問題を論じられるよう、準備を重ねていきたい。